

西濃農林事務所の普及活動状況

平成25年3月27日現在

今月の重点活動

■きゅうり 巡回検討会の開催とGAP現地調査

2月26日に巡回検討会が開催され、部会役員、種苗会社とともに、8ほ場の巡回調査を行い、生育状況や病害虫の発生状況等の調査結果を検討会において報告した。また、黄化えそ病に関わる調査結果と対策についても説明した。

海津胡瓜部会では、3月中旬から下旬にかけて、部会員全員を対象にGAP現地調査を行っている。調査者は、部会役員、JA担当者、普及指導員であり、出荷調整作業に関する事、農薬の使用方法について重点的に聞き取りと現場確認を行い、改善点を指摘している。

活力ある新産地づくり

■ブロッコリー 出荷状況

2月末までの出荷量は、20,231ケース（前年比86%）、販売額28,700千円（前年比95%）と前年を下回っている。

3月以降の気温上昇とともに花蕾の肥大が進み、遅れていた9月末定植ほ場でも3月中旬から収穫が始まったが、気温が急に高くなり、中晩生品種の花蕾にブラウンビーズやゆるみが発生している。農業普及課からは、出荷調整方法や病害防除について支援している。

売れる農畜産物づくり

■小麦 赤かび病の適期防除

平成25年産小麦は、イワイノダイチは、ほぼ順調に生育しているが、11月以降の低温推移の影響により、全体に出芽揃い、生育とも遅れ気味となり、農林61号は、播種時期によって生育のバラツキが大きくなっている。3月以降の気温上昇により、生育も急激に進んできているが、昨年同様、平年より大幅に遅れた出穂期になると思われ、小麦の開花期に向けて、赤かび病の適期防除2回の実施について支援していく。

また、発生が拡大しつつある農林61号の縞萎縮病については、発症程度別マップの作製を進めるとともに、追肥による被害軽減効果を確認することとしている。

■トマト 海津トマト部会女性部目揃会と支部研修の開催

日差しが強まり、日中の温度も20℃以上になる日も見られ、遅れていた生育も回復傾向にあるが、依然として小玉傾向で、大きな出荷量の増加とはなっていない。

3月12日に、海津トマト部会女性部による目揃会が開催され、検査担当から出荷規格について説明があった。農業普及課からは、温度上昇に対応した灌水、追肥の間隔を段階的に増やすこと、換気等により温度管理をすること等について説明した。各5支部の研修会が随時開催されている中でも、高温対策を心に説明を行っている。

■いちご 出荷は順調

2月中旬・下旬と、不作だった昨年を大きく上回る出荷量（前年比171%・166%）となっている。3月中旬からは3番果房の出荷が始まり、3月下旬～4月上旬にピークとなる見込みである。

2月26日に平田、3月1日に海津、3月5日に養老合同で中間目揃会が開催され、着色基準の変更を確認した。農業普及課からは、ハダニ類、アザミウマ類の防除について指導している。また、親株の春植えは、昨年よりやや遅く始まっている。

■甘長ピーマン・モロヘイヤ・千石豆 栽培研究会の開催

3月12日に、海津甘長ピーマン部会の栽培研究会が開催され、定植前後の栽培管理について指導を行った。また、一部の生産者の苗にアブラムシ被害が発生していたため、防除指導を行った。

25年産モロヘイヤは、3月27日から順次、播種作業が予定されており、3月15日に開催された栽培研究会において、播種・定植前後の栽培管理及び農薬の安全使用に関する指導を行った。

また、平成24年から、海津枝豆部会員の一部で千石豆の栽培に取り組まれており、千石豆は市場からの要望が高いことから、25年産も5名の生産者が栽培することとなった。3月8日の栽培研究会において、播種・定植前後の栽培管理及び農薬の安全使用に関する指導を行った。

■なし 平成25年産に向けた栽培支援

露地栽培では、3月以降気温の上昇により芽が動き始めた。ハウス栽培ほ場では、3月4日より豊水の開花が始まり、3月11日より受粉作業が始まった。

2月27日、3月5日の栽培研修会では、春先の天候不順を念頭におき、計画的な栽培管理の実施を呼び掛けた。

■柿 役員会の開催

3月14日に、養老町果樹振興会役員会が開催され、平成24年産の課題について検討した。農業普及課から、他産地に比べて赤秀や大玉果が少ないのは、間伐不足と剪定技術が低いことが要因であることを説明し、3月8日の県柿専門部研修会で行われた、加藤名人の実演の概要について報告した。また、かん水施設の無いほ場では、干ばつ時に肥料袋を使ってかん水する方法を紹介した。

■バラ 現地研修会の開催

2月26日に、神戸町バラ生産組合による現地研修会が開催され、農業普及課が月1回養液分析を行っている各ほ場を、生産者全員で巡回した。

バラの生育状況や病害虫の発生状況を確認するとともに、農業普及課及び農業技術センターの担当者から、病害虫防除、液肥管理などの実施について助言・支援を行った。



【研修会の様子】

■フランネルフラワー 春の出荷始まる

鉢花は、品種「エンジェルスター」の出荷が3月上旬から始まった。また、切り花は、12月以降出荷していなかったが、気温の上昇に伴い花数も増え、3月中旬から出荷が始まっており、出荷調整等について支援している。

戦略的な流通・販売

■農産加工グループ 「梅まつり」で加工品販売

2月17日～3月17日までの1ヶ月間、安八町で「梅まつり」が開催され、安八町農産加工運営委員会がうどん、農産加工品などの販売を行った。

前半は寒く、客足も少なかったが、後半になり、梅の花も満開になった頃は、大勢の花見客で賑わい、加工品の販売も順調であった。



【梅まつりでの販売】